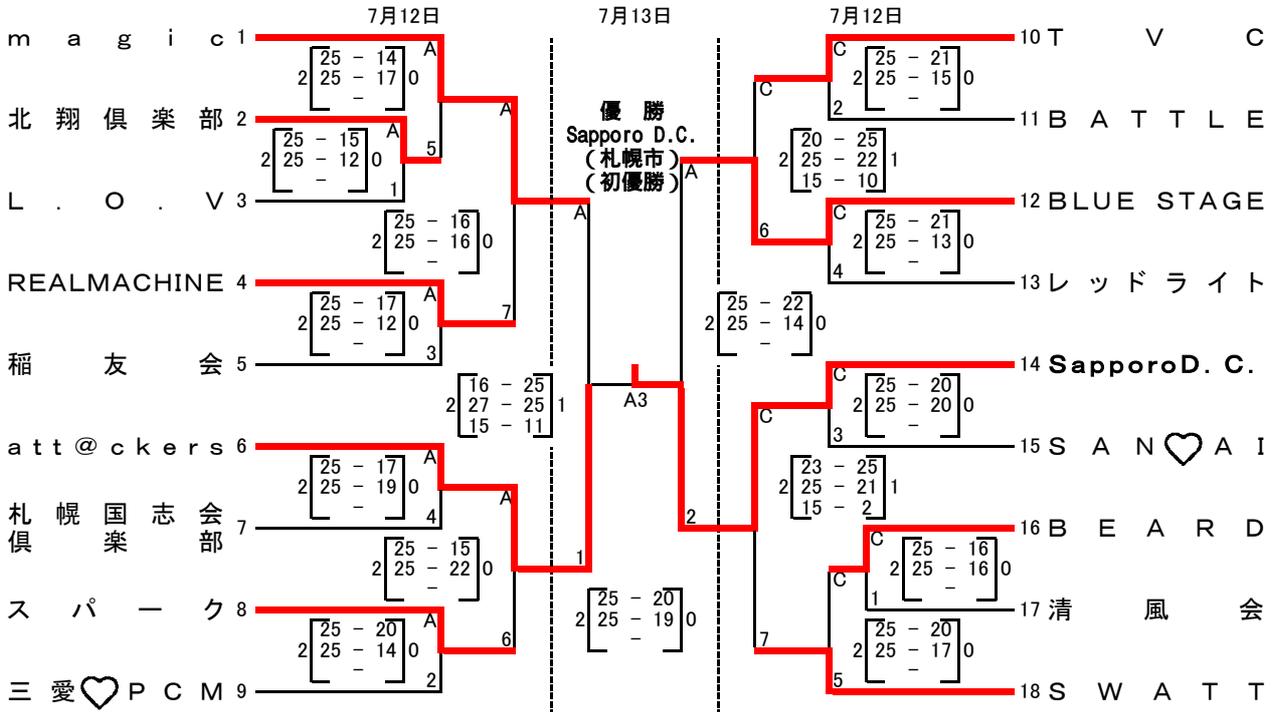


第14回 6人制道央大会

平成20年7月12日(土) 南幌町スポーツセンター, 栗山町スポーツセンター
 平成20年7月13日(日) 南幌町スポーツセンター

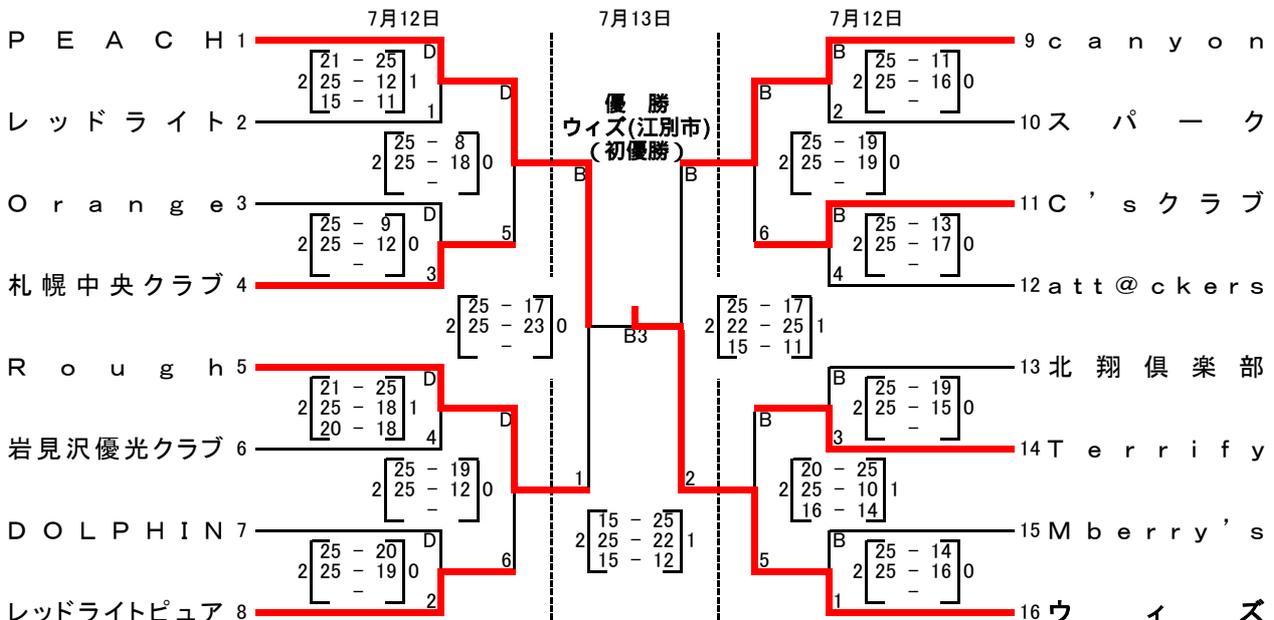
大会長: 吉川 貴盛
 大会委員長: 名畑 五朗
 競技委員長: 佐藤 充昭
 審判委員長: 大門 正人
 総務委員長: 沓沢 幸一

【男子の部】



戦評(6人制男子決勝戦)男子決勝戦は常に上位に位置するSapporo D.C.とシードチームを破り勢いにのるatt@ckersとの戦いとなった。第1セット、中盤まで一進一退の攻防を展開し、終盤Sapporo D.C.は攻守がかみ合いリードする。att@ckersは持ち前の粘りあるプレーで応戦したが、速攻が冴え渡ったSapporo D.C.が25-20で先取る。第2セット、両チームともセッター中心に速攻で点数を重ねたが、中盤Sapporo D.C.は7番磯西の活躍によりリードする。att@ckersは持ち前の粘り強いバレーができず、Sapporo D.C.が25-19と連取し初優勝を飾った。

【女子の部】



戦評(6人制女子決勝戦)実力のあるチーム同士の決勝戦、第1セット序盤は粘りある守りからPEACHが主導権を握り点差を広げるが、対するウィズも4番エース富澤にボールを集め必死に挑戦する。なかなか差を縮められないウィズに対し、バリエーション豊富な攻撃を展開したPEACHが25-15と逃げ切りこのセットを先取した。第2セット、何とかセットを取って対にしたいウィズは序盤から4番富澤、7番斎藤の両エースの活躍で一方的な展開となる。リズムを失ったPEACHはサーブプレッシャーも乱れ、追い上げることができない。次第にペースを取り戻しつつあったが、大事な場面でミスが出てしまい、そのままウィズが25-22と押しきり、セットカウントを対とした。決勝にふさわしく最終セットまでもつれた第3セット、序盤ウィズはここでも4番富澤のスパイクが連続で決まり、2セット目を取った勢いそのままに点差を広げる。しかしこのまま終わらないPEACHも粘り強いレシーブとサービスエースもあり必死に挑戦する。終盤ウィズは6番黒田の大活躍で15-12と逃げ切り初優勝を飾った。

(A・Bコート: 南幌町スポーツセンター, C・Dコート: 栗山町スポーツセンター)

【成績結果】

男子の部	優勝 Sapporo D.C. (札幌市)	準優勝 att@ckers (札幌市)	3位 BLUE STAGE (千歳市) magic (札幌市)
女子の部	優勝 ウィズ (江別市)	準優勝 PEACH (札幌市)	3位 Canyon (札幌市) Rough (札幌市)